

〈小特集／小特辑〉

国際シンポジウム「中国と日本の児童文学における家族」 国際研讨会“中日儿童文学中的家庭”

京都大学人文科学研究所に客員教授としてお迎えした同志社大学教授・富山一郎氏を班長に、2022年4月に発足した共同研究「家族と愛の研究」は、翌年11月25日、中国から、中国作家協会児童委員会副主任、中日児童文学美術交流協会会長ほかを務める作家・秦文君氏、日本から、児童文学、日中比較児童文学の研究で知られる大阪教育大学教授・成実朋子氏をゲストにお招きし、「中国と日本の児童文学における家族」と題する国際シンポジウムを開催した。以下の頁に日中対訳で掲載するのは、本シンポジウムにて発表された両氏の講演である。秦氏の講演は中国語で、成実氏の講演は日本語で行われたが、それぞれの講演を日本語、中国語に翻訳してくれたのは、東京大学社会科学研究所特任研究員で、上記共同研究のメンバーでもある沈恬恬氏である。なお、残念ながらここには収録できなかったが、お二人の講演に続いて、もうひとりのゲストである北京の出版社《小活字》社編集長・唐亜明氏より、日中両国語を操っての卓抜なコメントを頂戴した。両国の児童文学に精通する唐氏は、さらにその後の討論の進行役も買って出てくれたが、そこでの秦氏・成実氏の発言を日本語・中国語に通訳してくれたのは、やはり沈恬恬氏だった。そもそも、本シンポジウムのために秦文君氏を招聘できたのも、ひとえに沈氏の熱意と協力の賜物である。これらすべてのみなさんに、この場をお借りして心から御礼申し上げたい。

（立木康介／沈恬恬訳）

由受聘为京都大学人文科学研究所客座教授的同志社大学教授富山一郎担任组长，并于2022年4月启动的共同研究项目“家庭与爱的研究”小组，于次年11月25日，邀请了来自中国的兼任中国作家协会儿童文学委员会副主任，中日儿童文学美术交流协会会长等职务的作家秦文君女士，以及来自日本的以儿童文学，中日比较儿童文学研究著称的大阪教育大学的成实朋子教授，举办了题为“中日儿童文学中的家庭”的国际研讨会。下文刊载的是两位嘉宾在本次研讨会上所作的演讲报告的中日对照文本。秦女士的演讲用中文进行，成实教授的演讲用日语进行。两篇报告的日中互译由东京大学社会科学研究所特任研究员，也是上述共同研究项目小组成员的沈恬恬完成。非常遗憾的是，在两位嘉宾演讲之后，由北京《小活字》出版社总编辑唐亚明先生用中日双语所作的精彩点评未能收录在此。精通两国儿童文学的唐先生，还自愿担任了随后讨论环节的主持人。在讨论中，秦女士和成实教授的发言的中日双语翻译同样由沈恬恬担任。能够邀请到秦文君女士参加本次研讨会，完全得益于沈女士的热忱努力和大力协助。在此，我谨向所有相关人士表示衷心的感谢。

（立木康介／沈恬恬译）